横浜医学，64，1-6（2013）

原　著

当科における生体肝移植ドナー手術の安全性についての検討

熊本宜文[1)]，田中邦哉[1)]，武田和永[1)]，森岡大介[1)]，
窪田　徹[1)]，関戸　仁[1)]，野尻和典[1)]，森　隆太郎[1)]，
谷口浩一[1)]，松山隆生[1)]，秋山浩利[1)]，斉藤　聡[2)]，
窪田賢輔[2)]，前川二郎[3)]，嶋田　紘[4)]，遠藤　格[1)]

1）横浜市立大学医学部 消化器・腫瘍外科学，
2）同 消化器内科，3）同 形成外科，4）春江病院

要　旨：当科では1997年11月から2012年６月までに56例の生体部分肝移植を施行した．ドナーの平均年齢は43.2歳で，男性37名，女性19名であった．摘出グラフトは右葉37例（66.1%），左葉８例（14.3%），左葉＋尾状葉７例（12.5%），後区域４例（7.1%）であった．平均手術時間は447分，平均出血量は557ml，平均在院期間は13日であった．合併症は14例（25.0%）に生じ，このうち，Clavien-Dindo 分類でⅢ以上の重症合併症は６例（10.7%）であった．90%のドナーが術後３か月以内に社会復帰したが，７人（13%）が転職を余儀なくされており，合併症治療のため，１年以上復職できなかったドナーを２例経験した．当科の生体肝移植ドナー手術の合併症発生率は High volume center と比較して遜色のない成績であったが，合併症によって日常および社会生活の質の低下が認められるドナーが存在した．今後，手術技術の向上によって合併症発生率の低下を目指すことが必須であるが，これらの問題点の根本的解決のためには脳死肝移植の推進こそが最も重要であると考えられた．

Key words:　生体肝移植（living donor liver transplantation），ドナー（donor），合併症（complication）